

松本市の景気動向

— 中小企業景気動向基本調査 —

【平成30年5月】

■調査概要（データ対象期間：平成30年5月1日～5月31日）

- 調査期間：平成30年6月4日～平成30年6月22日
- 調査対象：市内中小企業200企業に対して郵送等によるアンケート調査
- 回収状況：建設業22企業、製造業20企業、卸売業15企業、小売業31企業
飲食業18企業、サービス業45企業（運輸、不動産仲介業を含む）
<合計151企業>
- 調査項目：5月の売上・仕入・営業利益・受注量・受注単価・販売(客)数・販売(客)単価
状況向こう3ヶ月の業況見通し（DI値を集計）

(注)DI (Diffusion Index)値は、売上などの各項目についての判断の状況を示す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※DI=(増加・好転などの回答割合)-(減少・悪化などの回答割合)

松本市・松本商工会議所

概況

業況DI・水準DIともにマイナス幅が拡大

1. 業況判断

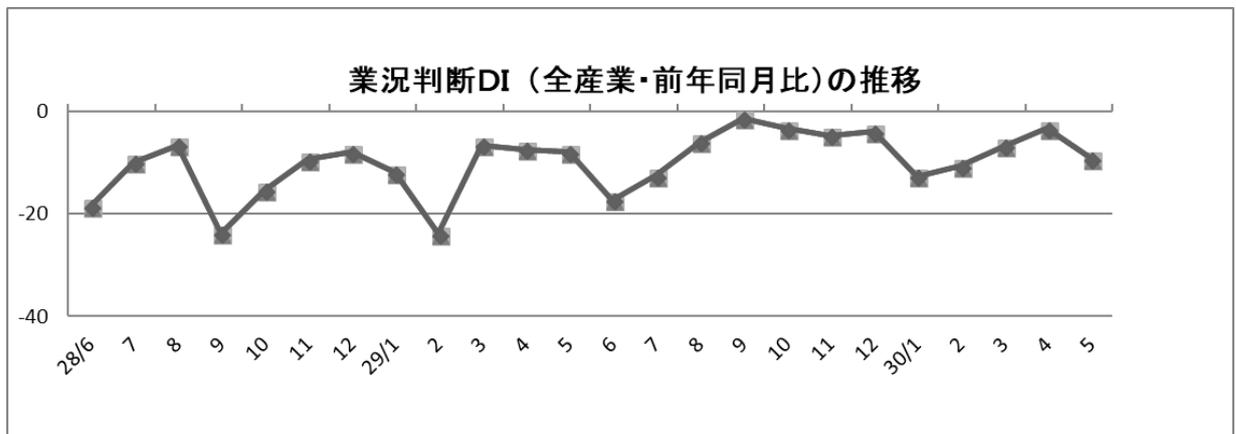
- 全産業合計の業況DI（前年同月比ベース）は、前月（▲3.3）よりマイナス幅が5.9ポイント拡大し、▲9.2となった。業種別では、サービス業はプラス幅が縮小し、製造業はプラスからマイナスに転じた。卸売業、建設業はマイナスからプラスに転じ、飲食業、小売業はマイナス幅が拡大した。
- 全産業合計の水準DIは、前月（▲7.3）よりマイナス幅が9.9ポイント拡大し、▲17.2となった。業種別では、卸売業はマイナスからプラスに転じ、建設業はマイナスからゼロになった。サービス業はプラスからマイナスに転じ、飲食業、小売業、製造業はマイナス幅が拡大した。

業況判断DI

	業況[前年同月比]				今月の水準			
	好転%	不変%	悪化%	DI	良い%	普通%	悪い%	DI
合計	14.6 (16.6)	61.6 (63.5)	23.8 (19.9)	▼ ▲ 9.2 (▲ 3.3)	13.9 (17.9)	55.0 (56.9)	31.1 (25.2)	▼ ▲ 17.2 (▲ 7.3)
建設業	13.6 (4.5)	77.3 (81.9)	9.1 (13.6)	↗ 4.5 (▲ 9.1)	13.6 (9.1)	72.8 (68.2)	13.6 (22.7)	↗ 0.0 (▲ 13.6)
製造業	15.0 (30.4)	60.0 (47.9)	25.0 (21.7)	▼ ▲ 10.0 (8.7)	15.0 (30.4)	30.0 (34.8)	55.0 (34.8)	▼ ▲ 40.0 (▲ 4.4)
卸売業	40.0 (15.4)	46.7 (53.8)	13.3 (30.8)	↗ 26.7 (▲ 15.4)	33.3 (15.4)	53.4 (53.8)	13.3 (30.8)	↗ 20.0 (▲ 15.4)
小売業	3.2 (7.1)	48.4 (67.9)	48.4 (25.0)	▼ ▲ 45.2 (▲ 17.9)	6.5 (7.1)	38.7 (64.3)	54.8 (28.6)	▼ ▲ 48.3 (▲ 21.5)
飲食業	11.1 (6.3)	50.0 (62.4)	38.9 (31.3)	▼ ▲ 27.8 (▲ 25.0)	11.1 (12.5)	55.6 (62.5)	33.3 (25.0)	▼ ▲ 22.2 (▲ 12.5)
サービス業	15.6 (24.5)	73.3 (63.3)	11.1 (12.2)	▼ 4.5 (12.3)	13.3 (24.5)	68.9 (57.1)	17.8 (18.4)	▼ ▲ 4.5 (6.1)

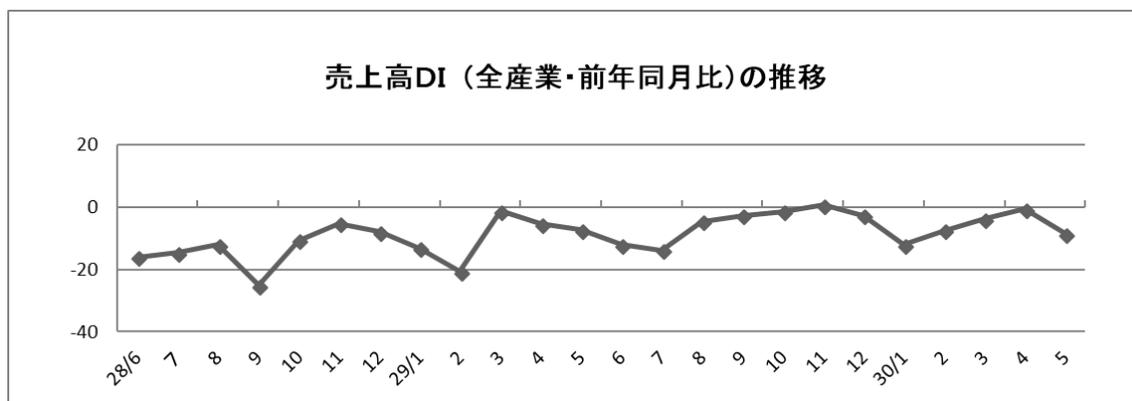
()内は前月データ

※「業況[前年同月比]」・・・前年同月の業況との比較による回答の集計
「今月の水準」・・・事業主の方の主観による回答の集計



2. 売上高DI（前年同月比）

○全産業合計の売上高DIは、前月（▲0.6）よりマイナス幅が8.0ポイント拡大し、▲8.6となった。業種別に見ると、サービス業はプラス幅が縮小し、卸売業はマイナスからプラスに転じた。建設業、製造業はプラスからマイナスに転じた。飲食業はマイナス幅が縮小し、小売業はマイナス幅が拡大した。

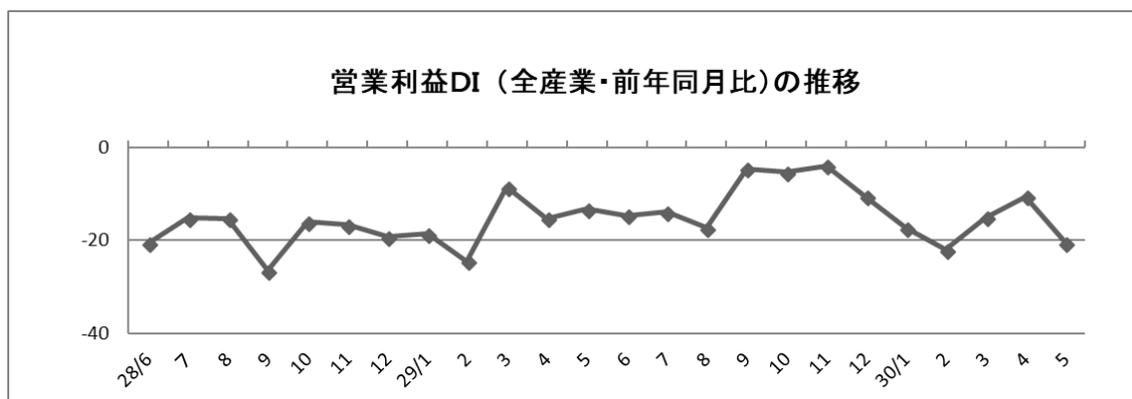


【対前年同月比売上高業種別DIの推移】

	29年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	30年1月	2月	3月	4月	5月
全 体	▲ 7.3	▲ 12.0	▲ 13.9	▲ 4.6	▲ 2.7	▲ 1.4	0.7	▲ 2.6	▲ 12.0	▲ 7.4	▲ 3.8	▲ 0.6	▲ 8.6
建設業	▲ 28.0	▲ 14.3	0.0	8.7	23.8	13.7	20.0	20.9	0.0	14.2	16.6	4.6	▲ 4.6
製造業	▲ 9.1	0.0	▲ 31.8	8.7	5.2	▲ 4.5	0.0	▲ 13.7	▲ 4.3	▲ 14.3	▲ 14.3	8.7	▲ 5.0
卸売業	16.6	▲ 33.4	0.0	20.0	0.0	13.4	13.4	25.0	6.7	12.5	7.7	▲ 15.4	26.6
小売業	0.0	▲ 17.6	▲ 20.6	▲ 15.2	▲ 16.1	▲ 12.9	▲ 20.7	▲ 16.7	▲ 33.3	▲ 18.2	▲ 11.5	▲ 10.7	▲ 38.7
飲食業	▲ 11.8	▲ 26.6	▲ 44.4	0.0	▲ 15.0	▲ 20.0	0.0	▲ 23.5	▲ 25.0	▲ 35.0	▲ 11.1	▲ 25.0	▲ 22.2
サービス業	▲ 5.0	0.0	2.4	▲ 22.5	▲ 4.2	4.9	0.0	▲ 2.5	▲ 9.5	0.0	▲ 2.7	10.2	2.3

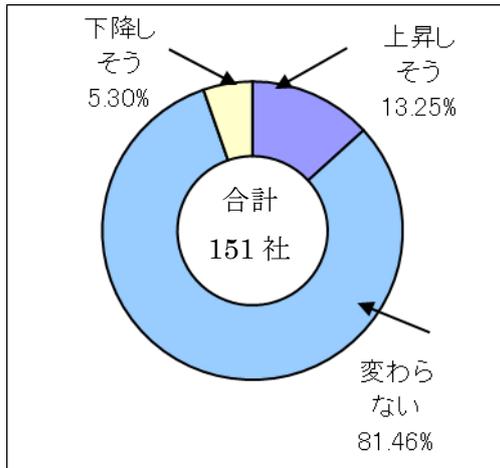
3. 営業利益DI（前年同月比）

○全産業合計の営業利益DIは、前月（▲10.6）よりマイナス幅が9.9ポイント拡大し、▲20.5となった。業種別に見るとサービス業はプラスからマイナスに転じた。建設業、卸売業はマイナス幅が縮小し、飲食業、製造業、小売業はマイナス幅が拡大した。



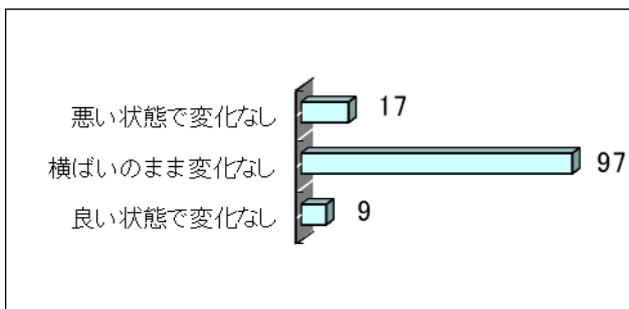
【対前年同月比営業利益業種別DIの推移】

	29年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	30年1月	2月	3月	4月	5月
全 体	▲ 13.3	▲ 14.7	▲ 13.9	▲ 17.3	▲ 4.6	▲ 5.3	▲ 4.0	▲ 10.6	▲ 17.3	▲ 22.0	▲ 15.1	▲ 10.6	▲ 20.5
建設業	▲ 32.0	▲ 28.6	▲ 4.7	▲ 21.8	4.7	13.6	8.0	▲ 4.2	▲ 13.1	▲ 14.3	▲ 22.2	▲ 22.7	▲ 13.6
製造業	▲ 9.1	▲ 4.7	▲ 36.4	▲ 8.7	5.2	▲ 9.1	5.0	▲ 4.6	▲ 4.4	▲ 47.6	0.0	▲ 4.4	▲ 15.0
卸売業	8.3	▲ 20.0	▲ 6.6	13.4	▲ 16.7	6.7	▲ 13.3	0.0	0.0	▲ 37.5	▲ 23.1	▲ 15.4	▲ 6.6
小売業	▲ 17.6	▲ 20.6	▲ 17.6	▲ 21.2	▲ 9.7	▲ 9.7	▲ 20.7	▲ 20.0	▲ 33.3	▲ 15.1	▲ 26.9	▲ 25.0	▲ 54.9
飲食業	▲ 11.8	▲ 26.6	▲ 38.9	▲ 25.0	▲ 10.0	▲ 25.0	0.0	▲ 23.5	▲ 30.0	▲ 35.0	▲ 22.2	▲ 31.2	▲ 33.3
サービス業	▲ 7.5	▲ 2.3	4.9	▲ 25.0	▲ 4.3	▲ 4.9	▲ 2.3	▲ 9.8	▲ 16.7	▲ 5.1	▲ 5.4	8.1	▲ 2.3



○平成30年6月～平成30年8月の見通しDIは、「上昇しそう」が前月の調査に比べ5.3ポイント増加し13.25%、「下降しそう」が3.31ポイント減少し5.30%となった。業種別の見通しDIは建設業(18.2)、製造業(15.0)、卸売業(6.7)、小売業(3.2)、飲食業(▲5.6)、サービス業(8.9)であった。

⇒「上昇しそう」では「今まではあまり良くなかったが、来月以降は物件の発注が多いため、売上高が昨年を上回る見込みであるため」「公共工事の発注が始まるため」(建設業)「5月が悪すぎたため」(製造業)「ハウスメーカー、パワービルダーの需要が好調のため」(卸売業)「暑くなり、川魚のシーズンに入るため」「店舗が増えたため」「夏物商材のセールに期待しているため」(小売業)「7月以降は最も忙しいシーズンであるため」「暑くなり、生ビールが売れ、お客様も増えるため」(飲食業)「夏休みが始まり、観光客が増えるため」「予約が順調なため」「工程別に検収してもらい、月々で精算してもらえるようにしたため」「ヘアケア商品をリニューアルさせ、価格は従来品より安い、効果はより高いものに変えたため」「公共の仕事がこれから出てくるため」(サービス業)といった声が寄せられた。

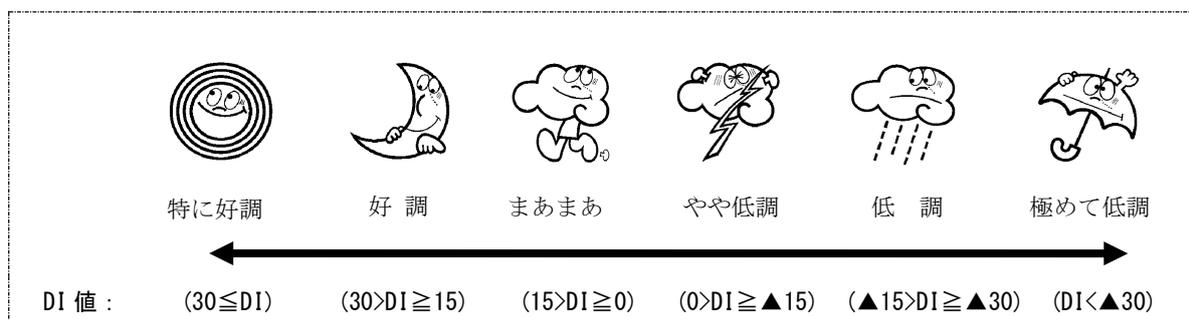


⇒「変わらない」では「仕事の予約もなく、公共の大口工事もないため」(建設業)「特に大きな変化はないため」(製造業)「職業訓練受講者が若干増加傾向にあるが、これ以上の増加は期待が薄いため」(サービス業)といった声が寄せられた。

⇒「下降しそう」では「5月の最悪の状況が尾を引きそうなため」(小売業)「ガソリンの高騰により、サラリーマンの小遣いが減ると予想されるため」「同業店が5月に開店し、影響を受けるかもしれないため」(飲食業)「常連様の予約がピーク期に集中する傾向があるため」(サービス業)といった声が寄せられた。

業種別景況

<DI | 君の景況判断>



1. 建設業



【項目別DIの推移】

	29年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	30年1月	2月	3月	4月	5月
売上高	▲ 28.0	▲ 14.3	0.0	8.7	23.8	13.7	20.0	20.9	0.0	14.2	16.6	4.6	▲ 4.6
受注量	▲ 40.0	▲ 33.4	0.0	▲ 8.7	9.6	18.2	4.0	12.5	▲ 8.7	19.1	▲ 9.5	▲ 4.5	0.0
受注単価	▲ 12.0	▲ 4.8	4.8	0.0	4.7	▲ 4.6	0.0	▲ 12.5	▲ 8.7	▲ 9.5	▲ 5.5	▲ 4.5	0.0
営業利益	▲ 32.0	▲ 28.6	▲ 4.7	▲ 21.8	4.7	13.6	8.0	▲ 4.2	▲ 13.1	▲ 14.3	▲ 22.2	▲ 22.7	▲ 13.6
見 通 し	16.0	9.5	14.2	4.4	0.0	▲ 4.5	4.0	0.0	8.7	14.3	0.0	4.5	18.2

<経営者の目・見方・e t c >

管工事

- ・売上率は改善されたが、材料、ガソリン等の値上りがあったため利益率は減少となった。利益率は受注価格が良くならなければ改善されない。

建設

- ・建設業としては、例年通りあまり仕事のない時期ではあるが、公共工事の発注が少しずつさされてきている。ただ、工事を落札するには競争も激しく、受注が予定できるわけではないので難しい。
- ・技術者の人材不足も慢性的な問題となっている。

電気工事

- ・官民ともに設備投資を控える傾向にあり、仕事量は増えない。

鉄工

- ・主として関東方面の物件の発注が例年を上回るペースで進んでいるため、地元の物件の発注があっても今年中に対応が出来ない状況である。個々の企業としては仕方ないと思われるが地域として考えるとあまり好ましい状況ではないと感じる。
- ・手持ち量も順調で業界全体に明るい雰囲気漂っている。引き合いも活発で、先行きに対する期待感は大きいものがある。
- ・地元の案件が多くなってきたと感じる。

2. 製造業



【項目別DIの推移】

	29年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	30年1月	2月	3月	4月	5月
売上高	▲ 9.1	0.0	▲ 31.8	8.7	5.2	▲ 4.5	0.0	▲ 13.7	▲ 4.3	▲ 14.3	▲ 14.3	8.7	▲ 5.0
受注量	▲ 18.2	0.0	▲ 27.3	4.3	15.8	▲ 9.1	0.0	▲ 13.6	▲ 8.7	▲ 14.3	▲ 9.5	8.7	0.0
受注単価	▲ 9.1	▲ 33.3	▲ 27.3	▲ 4.4	▲ 10.5	▲ 18.2	▲ 15.0	▲ 13.6	▲ 8.7	▲ 23.8	▲ 23.8	▲ 13.0	▲ 5.0
営業利益	▲ 9.1	▲ 4.7	▲ 36.4	▲ 8.7	5.2	▲ 9.1	5.0	▲ 4.6	▲ 4.4	▲ 47.6	0.0	▲ 4.4	▲ 15.0
見通し	▲ 4.5	▲ 4.7	▲ 4.5	0.0	▲ 5.3	0.0	▲ 5.0	▲ 9.1	8.7	9.5	▲ 14.3	▲ 8.7	15.0

<経営者の目・見方・etc>

印刷	<ul style="list-style-type: none"> ・業界としては、長期連休明けは仕事量が減ってしまう傾向がある。 ・印刷業界としては、あまり良い変化は見られない。
機械	<ul style="list-style-type: none"> ・仕入れコスト高は、継続の見込みである。 ・来年の大卒の採用状況は不透明なままである。
小型情報機器組み立て	<ul style="list-style-type: none"> ・6月後半より上昇見込みである。
酒類	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴールデンウィークは例年並みの入込があった。観光客は相変わらず外国人客が増加しているが、購買単価はたいして上がっていない。団体客数は減少しているが個人客は増えている。 ・清酒の業界全体では純米酒、純米吟醸酒は伸びている。 ・段ボール、箱、ビン等が1～5%じわじわ値上がり傾向にある。

3. 卸売業



【項目別DIの推移】

	29年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	30年1月	2月	3月	4月	5月
売上高	16.6	▲ 33.4	0.0	20.0	0.0	13.4	13.4	25.0	6.7	12.5	7.7	▲ 15.4	26.6
販売客数	0.0	▲ 20.0	6.6	6.7	0.0	▲ 6.7	6.6	0.0	0.0	0.0	▲ 15.4	▲ 7.7	0.0
販売客単価	0.0	▲ 26.6	0.0	6.7	▲ 8.4	6.6	13.3	18.8	6.7	18.7	23.1	0.0	▲ 6.6
営業利益	8.3	▲ 20.0	▲ 6.6	13.4	▲ 16.7	6.7	▲ 13.3	0.0	0.0	▲ 37.5	▲ 23.1	▲ 15.4	▲ 6.6
見通し	8.3	▲ 6.7	▲ 13.3	6.7	▲ 8.3	▲ 6.7	▲ 6.7	▲ 6.2	▲ 13.3	▲ 6.3	0.0	▲ 7.7	6.7

<経営者の目・見方・e t c>

土産品

・ゴールデンウィーク中は天候に恵まれたこともあり順調だったが、休み明けが厳しい状況である。新製品の開発をスピードアップしたい。

金属製品

・関東の案件が多いものの、地元での案件も出てきている。産業機械、建設機械においても生産量は増加しており、好調さを維持している。

自転車

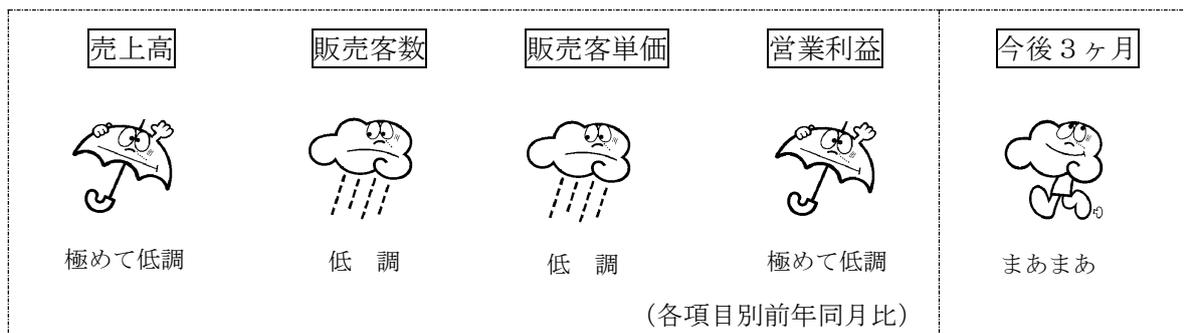
・電動自転車の売れ行きが好調である。

機械工具

・横ばいの予想である。

・半導体関連が好調であるが、関連部品の納期が掛かり過ぎている。

4. 小売業



【項目別DIの推移】

	29年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	30年1月	2月	3月	4月	5月
売上高	0.0	▲ 17.6	▲ 20.6	▲ 15.2	▲ 16.1	▲ 12.9	▲ 20.7	▲ 16.7	▲ 33.3	▲ 18.2	▲ 11.5	▲ 10.7	▲ 38.7
販売客数	▲ 8.8	▲ 14.7	▲ 17.6	▲ 9.1	▲ 16.1	▲ 22.5	3.5	▲ 30.0	▲ 25.9	▲ 18.1	▲ 27.0	▲ 10.7	▲ 25.8
販売客単価	▲ 5.9	▲ 20.6	▲ 23.5	▲ 24.3	▲ 19.3	0.0	▲ 10.4	0.0	▲ 3.7	3.0	11.6	17.9	▲ 19.4
営業利益	▲ 17.6	▲ 20.6	▲ 17.6	▲ 21.2	▲ 9.7	▲ 9.7	▲ 20.7	▲ 20.0	▲ 33.3	▲ 15.1	▲ 26.9	▲ 25.0	▲ 54.9
見通し	0.0	▲ 8.8	▲ 5.9	▲ 9.1	▲ 3.2	3.3	3.4	▲ 13.3	7.4	0.0	▲ 3.9	▲ 3.6	3.2

<経営者の目・見方・e t c >

印章

- ・工芸の五月で普段人通りの少ないエリアに大勢のお客様が押し寄せていた。良い企画があれば人が足を運ぶという良い事例だった。
- ・松本を訪れる目的は多様化しているの、それに合った対応を心がけなければならないと思う。

書籍、木のおもちゃ

- ・連休後半は天候に恵まれ人出も多く商売に繋がった。クラフトフェアまつもとも毎年立ち寄ってくださるお客様が支えになった。
- ・ゴールデンウィーク中は少し客数が増えたものの、相変わらず苦戦の日々が続いている。

観光物産

- ・書店も進化していかなければならないのだが、その解決策が見つからずにいる。ネット通販に押されていて、当分厳しい状態は続く。

住宅機器

- ・ゴールデンウィークはまずまずの人出だった。日本人客は減少の傾向にあるが、インバウンドである程度カバーできた。来月が心配である。

ショッピングセンター

- ・例年に比べ、動きが悪い。
- ・信毎メディアガーデンのオープンもあり、街に活気が戻りつつある。中心市街地においては今後ますます強い来店動機が必要になると思われる。マーケット内では「ここにしかない」「ここでしか体験できない」といったコト、モノにお客様は興味を持たれると感じた。

パン

- ・販売構造において4月にリストラを行い、5月を迎えた結果、自社店舗での販売は、昨年対比率112%、客数率107%とまずまずの成果であった。委託販売先の減少に伴い、全体の売上は大変厳しいものであるが、その分労働環境は改善された。今後働き方改革とともに、事業の目的達成を目指していく。

陶磁器

- ・弊社にとって、新店舗開業という大きなイベントがあった。これから定着、安定するにはどうすればいいか検討したい。

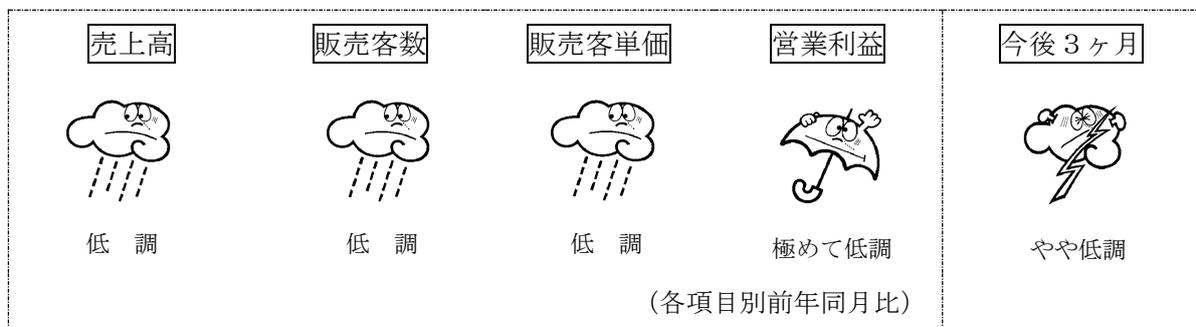
生鮮食品

- ・ここ1年で近隣の飲食店が立て続けに3軒も閉店したが、いずれの店舗も現在工事中で近々新規オープンするようだ。どの業界も競争は激しいが、空き店舗がすぐに埋まるのはありがたい。

- ・連休、母の日、クラフトフェアまつもと人々の動きがある月である。
- ・街中に人は多いが、買い物袋を持っていない。

おやき	・大型連休の後は客足が鈍くなった。近所の飲食店では閉店したところもあり、二極化が進んでいるようだ。
石油製品販売	・石油製品、LPガスの輸入価格が上昇のため、差益の確保が難しい。
燃料	・原油の値動きが影響している。
宝石	・最悪の状況であった。
菓子	・上旬は例年並みの観光客だったが、長野県北部で起こった震度5強の地震、余震の報道の影響か、クラフトフェアまつもとは例年に比べ少なかった。クラフトフェアは他都市でも力を入れており、松本は女性の出品者が増え、ヤングファミリーが目立った。各中心市街地の商店街が誘客の工夫をしており、良かった。
婦人服	・業界全体の前倒しのセールが年々早くなり、安さをアピールした営業が日常になっていて残念である。 ・百貨店の改装があつてお客様に好評だった。高級感や満足感、おもてなしなど安さより大切なことがあると思う。

5. 飲食業



【項目別DIの推移】

	29年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	30年1月	2月	3月	4月	5月
売上高	▲11.8	▲26.6	▲44.4	0.0	▲15.0	▲20.0	0.0	▲23.5	▲25.0	▲35.0	▲11.1	▲25.0	▲22.2
販売客数	▲5.9	▲33.3	▲38.9	▲12.5	▲10.0	▲20.0	5.9	▲23.5	▲30.0	▲30.0	0.0	▲12.5	▲22.2
販売客単価	▲11.7	▲26.7	▲33.3	6.3	▲15.0	▲25.0	0.0	▲23.5	▲25.0	▲10.0	▲5.5	▲12.5	▲16.6
営業利益	▲11.8	▲26.6	▲38.9	▲25.0	▲10.0	▲25.0	0.0	▲23.5	▲30.0	▲35.0	▲22.2	▲31.2	▲33.3
見通し	0.0	6.7	▲5.6	▲6.2	0.0	▲5.0	5.9	▲17.6	25.0	5.0	5.5	▲6.2	▲5.6

<経営者の目・見方・etc>

寿司	・開催中の草間彌生展に加えて、クラフトフェアまつもとや信州まつもと大歌舞伎などが開催される中で、高まる観光需要を取り込めるように事前の準備と対応を心掛けたい。 ・今年の大型連休は人出が多かった。来客数もそれなりに悪くなかったと思う。今月は「こどもの日」「母の日」等いろいろなイベントが数多くあり、活気のある良い月である。ただし下旬は落ち込むと感じる。
仕出し料理	・従業員の高齢化、人手不足に伴う、賃上げ等厳しい状況が続いている。毎食、楽しみにしてくれているお客様「美味しい」や「ありがとう」の声が励みとなっている。
創作料理	・四賀地域で飲食店が増えつつある。当地域の開業者は少なく、1ターンや他地域出身者の方が多い。しかしこれらの経営者は、この地域で取り組んできた「食品衛生協会」「青色申告会」への参加は皆無な状況である。

郷土料理

・連休、クラフトフェアまつもとによる変化はなかった。予約のない平日は静かであった。上昇傾向と考えていたが、今月で普通に戻った。

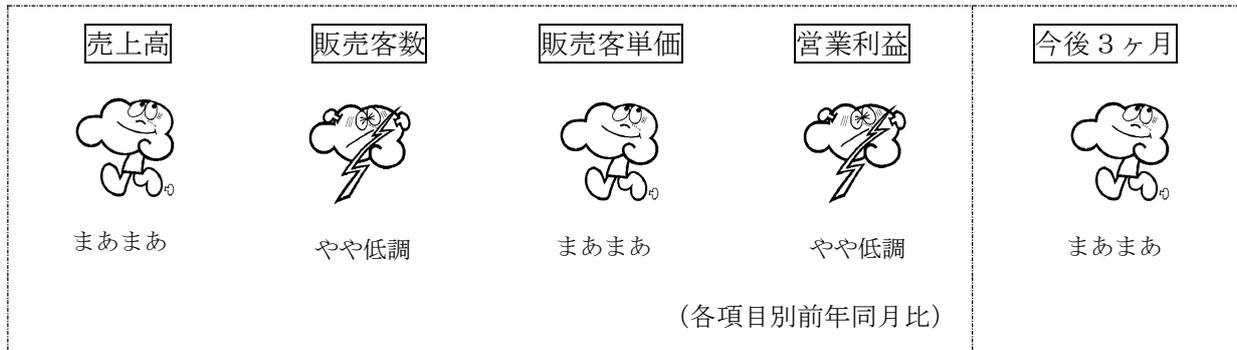
料理

・連休は休業状態で、後半は地元客の動きが悪く、パツとしない月であった。

居酒屋

・飲食店の新規出店があり、競争が激化している。呼び込みが増え、人の通りが変化しつつある。

6. サービス業



【項目別DIの推移】

	29年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	30年1月	2月	3月	4月	5月
売上高	▲ 5.0	0.0	2.4	▲ 22.0	▲ 4.2	4.9	0.0	▲ 2.5	▲ 9.5	0.0	▲ 2.7	10.2	2.3
販売客数	▲ 7.5	▲ 2.3	▲ 2.5	▲ 24.4	0.0	0.0	▲ 2.3	▲ 9.8	▲ 23.9	▲ 12.8	▲ 5.4	6.1	▲ 8.9
販売客単価	0.0	9.1	0.0	7.4	▲ 4.2	9.8	▲ 4.6	▲ 2.4	▲ 4.8	0.0	8.1	4.0	4.4
営業利益	▲ 7.5	▲ 2.3	4.9	▲ 24.4	▲ 4.3	▲ 4.9	▲ 2.3	▲ 9.8	▲ 16.7	▲ 5.1	▲ 5.4	8.1	▲ 2.3
見通し	▲ 5.0	4.5	0.0	▲ 4.9	8.5	▲ 4.9	0.0	0.0	▲ 4.7	2.6	8.1	6.1	8.9

<経営者の目・見方・etc>

自動車整備、
板金塗装

・業界団体の総会があった。先行きが不安になる要素も含めた来賓の方々の挨拶の中で「この業界も今後、自動ブレーキ、自動運転の車が増えれば車検制度、事故車修理の減少により業界の淘汰につながりかねない。」とあった。確かにその通りであると感じた。

不動産賃貸
観光旅館

・変動なし。
・連休の後半は、天候に恵まれなかったものの、全体としては好天であり、宿泊数は順調に伸びた。それに引き換え、従業員の不足が深刻な問題になっている。そのため予約を断り、満室にはできない。また、外来の食堂や売店を閉店にせざるを得ない事態は、何とかしなければならない。

温泉旅館
ホテル

・陽気と共にスポーツシーズンに入るため、ビジネス、観光客が増大した。
・宿泊については好調である。もともと動きの良かった週末の他、平日の動きも良かった。ゴールデンウィーク明けの宴会の動きについては若干鈍い状態である。来月の宴席予約についてもあまり大きな動きがなかった。婚礼会場の検討者が例年増えるゴールデンウィーク、ゴールデンウィーク明けの期間についても今年度は松本エリアは低迷傾向にある。
・松本において民泊関連の大きな動きはまだないが、大都市では動きがある様子である。今後の地方都市での動向が気になる。新規ホテルに対する備えも必要である。

宿泊	・ゴールデンウィーク前半は良かったが、後半は悪く、その状態が続いたため今月は売上が芳しくなかった。特に山行の方が少なかった。
写真	・学校関係の仕事が少し増えた。
リラクゼーション	・ゴールデンウィークは地元の消費活動が活発であった。
タクシー	・上旬の観光地の天候は安定せず、観光客数はまだ少ない。 ・ガソリン価格は中旬から大幅な値上がりとなった。
機械設計	・前年が良すぎたせいもあるが、前年に比べてあまり良くない。
旅館	・昨年の夏から、月に8日間の休館日を設けたので、繁忙期の8月、10月は別として、今後5～9%くらい売上が減少する。
ソフトウェア	・顧客各社とも、システム化予算の稟議が通りやすい感がある。ただ、昨今の多品種生産・商流の多様化に対するシステム施策や開発・リリースのサイクルをより早く回すなど、提案者側の工夫がより一層求められている。
ホームクリーニング、リネンサプライ	・市内のホテル、旅館の稼働率は引き続き良好である。
ペットサービス	・売上高、来店数ともに例年並みであった。新たな投資により、効率及び生産性の向上を目指したい。
美容	・美容院の差別化が出来ていないため、値下げによる集客しか手段がないという業界の現状がある。
ネイル	・5月は美容業界の大きなイベントであるビューティーワールドが東京で開催され、3日間とても盛り上がった。新商品を始め、今後のネイリスト協会の動きなどを知ることが出来た。
測量、建設コンサルタント	・公共事業の発注が少ないため、受注が少ない。民間発注もこれといった動きがなかった。
教育業	・学校の行事(運動会)があり、その練習や天候不順も重なったため、習い事を始める方向にはあまり向かない月だったと感じた。